国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

人之故障や或ハ家主地主等迄も及
相互手数相掛り候人之難儀ニおよひ
甚不埒之次第之儀ニ付厚ク心得違
之以後猶右躰之者見当り次第急度咎申付
右之趣ニ候得共意地悪敷者人之為も不顧
家主名主共ニおゐて右躰之者見当り候ハヽ差押
置候上申出若心得違之者有之ニおゐてハ不埒至極
都而人別相糺急度可申付事

右之趣小前末々迄不洩様家主名主別
段念入可申渡者也

庚午
六月

津山縣
町會所

右町々
外拾七町

第一

定

一 人たるもの五倫の道を正しくすへき事

一 鰥寡孤獨廢疾のものを憫むへき事

一 人を殺し家を焼き財を盗む等悪業あるましく事

慶應四年三月　太政官

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

第二

定

何事によらずよろしからざる事に大勢申合せ候をととうととなへととうしてしゐて願ひ事くはだつるをがうそといひあるひは申合せ居町居村をたちのきをちやうさんと申す堅く御法度たり若右類の儀これあらば早々その筋の役所へ申出べし御ほうび下さるべく事

慶應四年三月　太政官

第三

定

一　切支丹宗門之儀は是迄御制禁之通固く可相守事

一　邪宗門之儀は固く禁止候事

慶應四年三月　太政官

第四

覚

今般
王政御一新ニ付
朝廷ニ御條理を追ヒ外國御交際之儀
被仰出諸事於
朝廷直ニ御取扱被爲成萬國之公法
以條約御履行被爲在候ニ付而ハ全國の
人民
叡旨を奉戴し心得違無之様被仰付候
自今以後猥リニ外國人を殺害し或ハ
不心得之所業等いたし候もの者
朝命ニ悖リ御國難を醸成し候而巳ならす
一旦御交際被仰出候各國ニ對し
皇國の御威信も不相立次第甚以不届至極の

国立国会図書館　タイトル『雑事』 請求記号 822-39
ガラス使用

御附其職之輕重ニ從ひ士列之者と雖
も削去籍之至當之典刑ニ而處シ樂路之
事
新屋樓之罪蔵行之所業無之様被仰出候事
三月　太政官

覚

王政御一新被仰出候ニ付速ニ天下億兆萬民
安堵之道ヲ諸民其所ヲ得候様
御煩慮被為在候付然於猶天下浮浪之者
有之候ハ猶更不都合自然山之類流浪
も窮民之様ニ相成候民とも帝國之體裁之
ハ不容易事ニ付某一般國之者
有之不埒之所業ニ以及候節者夫等之者
産業可相付候ハ其所之其旨并ニ付等上下
全國之處名又ハ宮家之御差等有之建定候て

国立国会図書館　タイトル『雑事』 請求記号 822-39　　ガラス使用

雑事　序

権大筆

谷□稿

溪高□編

且波□衍

足之収税を掠んか為メ紙銭偽刻

川通不法取締出又自己之為しめて

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑事』 請求記号 822-39

ガラス使用

居留地約條書抜

第十二ケ條

現今外国居留地境内なる地所を以て之を塞し
他の地面并外国居留人之会堂を要する時ハ
外国目代ニ考合せて日本政府ニて掘割し
山之手の内の地并海ニ付別紙絵図面ロ号ニ
載するごとく新道の入口まで外国人用として
之を許し向後之を損し申まじく約束之掘割の

日本人寺院僧侶
諸外国ヘ住
外国人の

入口本村の官ある居留地残揚ケ之用意致
有之候ニ付右地所ヲ此約定の日より
四年之後ニ至り日本政府ニて其期ニ至り右持の
揚所地形を渡す日本人より右転携致し
夫迄地所を其揚ケの為め外国人の便利の
為め日本人の転住致させ故ニ当
とも寺社其外を存在致し

慶応二寅年五月廿三日

庚午の門戸開ヶ後已来
外佛の用意あるべき事ニ付

小栗上野介

柴田日向守

水野若狭守

船税規則并ニ布告

御布告案

商船之儀布告書并規則書共去庚午正月中相達候処今般船税之儀新式規則書之通相定候条各管内並区々之取扱無之様取計可有之事

辛未

八月　太政官

国立国会図書館　タイトル『雑事』 請求記号 822-39

ガラス使用

並船ハ本高船ヲ以テ論シ西洋形ハ高船ト
並ニ通船税ニ至迄従前高船税目中ニ
掲載無之モ変更之上管轄所ニ於テ取扱候処
纏リ不申不都合ニ付各府縣ニ於テ
右海船等級類別ニ従ヒ鑑札相渡シ
来年分ヨリ年々定則通税金取立可申
事

辛未 八月　大蔵省

船税規則

第一則

一 各管轄所ニ於テ其管下船持共右海
每一艘篤ト見届ノ上積石数ヲ改
鑑札ヲ渡シ石数順数ニ應シ並形日

本船者百石ニ付金壱両 蒸気船者
百噸ニ付金拾五両 風帆船者百斤ニ付金
拾両宛税金年々可差出事
但新規合船或者譲請船證札
頂戴之節ゟ出役相改篤与見届
上積石数改證札ニ相渡置
右證札者他方航海中常ニ大切ニ不
持行為致若遭難又者紛失ニ而
失ひ候ハヽ其仔細明瞭ニ相分候上是迄
渡置積石高を改し新規證札可
相渡事

第二則

一 各港内船税金者毎年四月中迄
取立六月中迄ニ納書共相添当府ニ
可差出事
但当年未年之分ハ十月中迄取立候

去十二月中ニ納方ニ可取計事

第三則

一 各港入津之船ハ其持之証札ヲ以差
出改可申若積石数証札面ト相
違候ハヽ其積石之差違ニ應
し日本船ハ百石ニ付金三両ツヽ蒸気
船ハ百噸ニ付金拾五両帆船ハ金
三拾両之割合ヲ以港役所ニ於テ
取立其管内之ものニ而免之証札ニ従
差違之石数之廉ニ應し増税金取
之其役方明細書ヲ添当局ニ差届
可申事
但取立方取計并納方之儀ハ前税金
同様ニ取扱事
他管下之船積石差違之節ハ其取計
金高其段申出し以港之役所ニ取立可申

其代船礼書役并ニ帆税合夜番等も
仮令其管轄所より達し出役有之
ニ而可申立事

第四則

一 各管下ニ於テ新規合船或者解
船破船又者船譲渡之節十五日以
内届可申事
但四片合解船破船并四片渡合
船ニ至ル迄之税金者相納ニ不
及事

第五則

一 右揚ニ船者積石五拾石以上之高
船ニ限リ可申尤艀漢船ニ而積石五
拾石以上ニ候共例外之事
但艀漢船之類在役方名所迄ニ
付一定之規則迄證據可相成候

条船役ニ而酒税規則免除可致者
尤右規則ハ従来定石数ニ而可致混
前之通取扱可申事

第六則

一 鑑札焼印并押切判共鑑札ニ通リ
其管轄府ニ而製造いたし候ハ鑑
為相成候出且遺漏ニ而も取糺し
可申事

第七則

一 右規則施行ニ付而ハ諸入費者一ヶ年
試験之上可申立事

右之通規則相定候事

辛未

八月　　大蔵省

表面

刻下

何石積

何丸

乗組何人

何国何郡何村

誰船

誰某

此竪 寸
横 寸

表面

刻下

何噸積 蒸気/帆前 船

何丸

乗組何人

何国何郡何村

誰船

誰某

四上

国立国会図書館　タイトル『雑事』 請求記号 822-39
ガラス使用

裏面

明治四辛未 月

何府
縣 廳

同上

燒下

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑事』 請求記号 822-39

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑事』 請求記号 822-39

ガラス使用

十月十八日東京出張所ゟ承候

西洋形風帆船並ニ蒸気船自今百姓町人ニ
至迄所持之儀差免候間製造又ハ買入等
致度者ハ管轄府藩県添書を以東京
外務省ヘ可願出事

但身元不慥之者ハ外国人ヘ引合御免人
而私之名代を貸與へ以之外之悪弊有之
候條府藩県ニおゐて篤と吟味之上添書
可致事

十月十七日四番

太政官

辛未九月十二日布告之内

一等　金八百両
二等　金六百両
三等　金四百両
四等　金二百両
五等　金百両
六等　金弐百両
七等　金弐百両

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39
ガラス使用

八号　　令百五拾壱
九号　　令百五拾弐
十号　　令百五拾三
十一号　令百五拾四
十二号　令百五拾五
十三号　令百五拾六
十四号　令百五拾七
十五号　令百五拾八

十六号　令百五拾九
十七号　令百六拾
第六
一号　　令百六拾壱
二号　　令百六拾弐
三号　　令百六拾三
四号　　令百六拾四

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39
ガラス使用

新貨幣ニ對スル交換ノ相場ヲ定メ及ヒ舊貨幣ヲ準據ト
以テ一圓ノ金ヲ圓何錢何厘ト定メ何種何圓何錢ヲ本條ヲ以テ
何種ノ貨金何圓ニ變更シ從來ノ計算ヲ改メ新貨幣ヲ以テ
新ニ計算ヲ爲スヘキ場合ヲ定ムルモノトス

第二條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ日時ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第三條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ場所ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第四條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ日時ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第五條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ場所ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第六條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ日時ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第七條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ場所ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第八條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ日時ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第九條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ場所ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第十條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ日時ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第十一條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ場所ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第十二條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ日時ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第十三條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ場所ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第十四條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ日時ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第十五條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ場所ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第十六條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ日時ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第十七條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ場所ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第十八條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ日時ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第十九條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ場所ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

第二十條 各地方官ハ其管轄ノ區域ニ於テ新舊貨幣ノ
交換ヲ爲スヘキ日時ヲ定メ之ヲ公告スヘシ

国立国会図書館　タイトル『雑事』 請求記号 822-39

ガラス使用

并郡會之地ハ別ニ布令行届候樣
可致候事

辛未
九月晦日　大藏省

次大坂造幣寮ニ於テ既ニ新貨ノ鑄
造盛大ニ御施行有之候得共夥多ノ
古金銀一時ニ改鑄国内一般新貨
遍ク發行難相成候處貳分判ヲ
厭忌ニ候ヨリ自然上下ノ不融通ヲ
醸ニ候ニ付今般為替座三井組ヘ申付
政府在来ノ古金銀ヲ引當トシテ凡
高三百万圓ノ正金引換十圓五圓

壹圓三種ノ證券ヲ制造シ来ル十五
日ヨリ發行致シ海關稅ヲ除クノ外
租稅其他ノ上納物日用公私ノ取引
ニ至ル迄總テ正金同様ニ通用セシメ
候左右證券ノ儀ハ新貨鑄造ノ高
ニ應シ引揚クベキ筈ニ得共若シ差當
リ正金引換方望出候モノハ何時ニテ
モ三井組ニ於テ在来ノ蔵分判ヲ以引
換遣シ候條諸民一毫ノ疑念ナク
從前金札同様ニ通用致スベシ
此段相達候事

辛未十月

太政官

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

洋銀百拾弐枚之高返ニ年賦償之高ゟ
定其下方ニ而修復致候分租代拂之高
諸職人ニ代拂之償方を以勘定致し
候ニ付宗和租代拂下成右高六百拾五枚ニ付
不
増し候ニ付宗和租ニ相成候ニ付右壱枚金
渡方之入費ニ而相成候事

一 銀金建増石内横根居ニ而落成ニ付入費之
高ゟ四ヶ年賦割完代拂ニ而無利息ニ而相済

横根居入費高ニ合せ修復高ニ而安増ニ
致し

一 建増石内横根居ニ而落成ニ付市蔵次郎
面方宜貢見合ニ而上納屋ニ遣置可被致候
右之趣ニ付御請判之上相成候ニ付仍之上

明治四年辛未十月三日

神奈川県典事 内海忠勝
神奈川県大参事 梅田親義
神奈川県知事 井関盛艮

佛国公使館附

シブスケ　米下

當月三日附書翰を以て仕ハ我等横濱佛公使館
修復之義ニ付相談有之候所我公使より中建金ハ公使
許可有之双方便利ニ有之ト存居候公然承知
仕候ニ付以後公使館修復之為メ文行ふへくさ
願ハ右之通了

一　公使館全体付属来候千年ニ宗祖高洋銀
四千九百廿四弗八十七セントニ而八ヶ年洋銀六百

国立国会図書館　タイトル『雑事』 請求記号 822-39
ガラス使用

十五番之高近来年々修復ハ御定之通方
ニ而修復致サセ候得共紀ニ而右入用諸
職人請負ニ相成候ニ付寒宜共右番ニ付右之高
十番ヨリ去増ニ而右之宗和ニ而入用之
我ら方ヨリ可為出候事

一 鉄炮増田内採板高ニ而去年十ヶ処入費割
宗和年々ニ而組込置ト申ノ積置候へ共右
之修復高ニ増加致候事ニ候

一 速増田内採板高之義ハ中上候通入費
官首見込ヲ以上ニ而御殿より造営之所
候事

右之條々公使ニ於而委細承知仕候
之義ニ付右之趣申談候迄以上

佛蘭西公使館附

六月廿日 治部 印

神奈川県知事 井関斎右衛門殿下

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑事』 請求記号 822-39　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

奉　大庭柳楢雄

私参事　思議稿

南横濱ハ開港以来田畑及沼地海面ヲ
埋立人民移住寛大ナル繁盛ヲ致シ海辺ニ当
呑水ハ排底適シ堀井浮水仕ル者汐氣
ヲ含ミ呑料ニ難用様ニ候シ買候テ者
水切レ水價高直ナル人民及難儀ニ居

玉川ハ風引之儀先般民部省江我
中ち吉木可并為新官員ニも出張
實地踏検測量仕和田川通武州
多摩郡中ノ島村ゟ橘樹郡市場江
至り両用水ニ入口同郡堰村
ニ而二ヶ所合稲毛川崎弐ヶ領用水之義ハ
井筋流末同郡麻生村ゟ近道法凡
四里余之間床下土落玉川通合

而又合川上ニ而堰仕年麻生田中村向郡
露瀬見村外七ヶ村円又横濱迄
凡三里余之場所ニ而之殺法ニ而数ヶ所来城
道路ニふさ候杭植雜木仕樋補理
川水ハ申ニ及ニ而各港呑水ニ而福門
公衆おニ用ニ迄殺深々お敬良合ニ
最ニ而国ハ故障ハ無之哉人費仕
様おと考ル議中ニ年後高ニ不お成

得共凡拾三万両程之義ニ而掛目的ニ而ハ難之
右川水之義者当港市中頭人共申合之而
揚候也今之上補理致候而も高凡五万両
余り相掛候故総而退可成功之上右揚候
金を割合ヲ以積立頭之通申付置候京
修復補理ハ勿論未成田畑清代
之儀も無之所当国之恐事ある共会所ニ相成
而追而為取計を以積立候様ニ而川水成功之

上者為合之水税相立当方見込も有之候
且当港者前々頭之通来之呑水掛樋
之儀是迄之如くニ而未成人員未揃並及
継渡ニ而官費を掛候而ハ是非他所ニ
川水方之儀者三千両程之積ニ而取極幸ニ
頭人共有之補理ニ而も為人気相立
之儀者当度者尤ニ付尊右清代租税共
川方之儀ニ而年々之川方詳細之儀ニ付

神奈川縣

当分調中上ハ振ヲ仕候ヽ租税寮ヘ及
積高書并絵図相添此段伺申上候

辛未四月　神奈川県

辨官御中

辨官御附紙写

書面横濱市中各開路新規
補理之儀者伺之通去而得須人
出金割戻方之儀小役夫立之方法
ニ余収納ノ及別紙目細調
書ニ可申立候事

外國人雇入心得書

近来外国人を雇入各般使用ニ
供し所有之候も無論ニ而　依沙汰
之通り預諸之上ニてハ不苦候ニ
候得共雇入方ニ寄案内不跡漏之
約定ニおよひ或ハ其雇入ニ付き
人物之撰方精細ならされは後来
不都合之故障ニ及ひ候而大

略之心得方別紙を以布告
是迄ハ凡右を標準といたし候事ニ付
願出届ニて其手續を失ハ
さる樣ニいたし可申候依而此段
申達候

明治三午第二月　外務省

外國人雇入方心得條々

一 外國人ニ接對するハ信義を
第一となし皇國之聲譽
を失ハさる樣心掛く可し

去其雇入るよ當てハ其當
人学術之淺深人物之善否
熟為之上其相談ニおよぶ可し

東洋諸州ゟ来る外國人之

内ニハ誕妄軽浮之徒なきにしも
あらされ共多くハ其物色行届か
ず疎漏之儀可有之、まかせ或ハ
彼之虚誇自負を信用し其
雇入るゝ用向ニ適当せざるも
ありて徒らニ給料を費ひ
却て如何ハ再三吟味之
上ニ雇入可申事ニ候事

一 傭之上外国人雇入候節ハ其者
身分ニより外務省并ニ各港
場之官員ニ而其雇入候者之官
吏へ申達置及ヒ候ハゞ雇差
免ハ節ニハ其旨届出候ハ可為
一 諸学科ニ付テ雇候ハ上ニモ
学術為ツニ使用致可申外国
人之爲其私利を貪り為業

之外日本内國人と門合西買
不相成候願出候とも差許へく
候得且外國貿易筋之周
旋いたし容高ケ間敷義有之
おいては當人ハ勿論雇人迄も
者迄咎申付へく候ニ付可
宜ニ得候事

一 外國人之振合年季給料中ニ

一 雇入候節ハ使用之年季給料并其給料渡方之前後又ハ支払金高諸勘定向後ニ議論無之様決定いたし置可申事

破談いたし候節ハ多くハ其年
限丈ケ之給料渡遣し候由ニ付右之
心得を以半丈ケ七年季ニ而不渡
使用之上出精いたし候ハ為勤とも
おゐいても節ニ依る満年季之
申談候事
附 略差出候見込之者ハ凡半
ケ年ニ而も一ケ年ニ而も其者当人

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39
ガラス使用

ハ相違無御座候事

一右雇候節當人屋賃食料
家具筆墨代等之入費ハ勿論
小遣給方之者共ニ至月給之内
ヲ以テ相弁ニ有之候筈ニ而雇主ニテ一
属入費との區別判然相紛
敷様取極置候ニ付此段尤もなき
時ハ月給之外雇主之方ニ而

余計之入費相掛り候事と奉
存候

一月給其外拂渡之節ハ必ス横
文字ニて請取之證書為取置能
收紀ハ申置候ハゝ右横文之
譯認メさせ様為調ニ而後日之
為證用ニ立候と存候なり

一雇年季之内彼方勝手ニ而

一 賍を受し節ハ彼方約定異
変之節ニ付篤与其賍を差し
事実あれハ上ニて給料差
引方等ある旨之申立を施し
事
一 不勤ニて数日之間其職を
なさゞる節ハ雇主免去之証無
酒色ニ耽る如き放蕩之不

業ありて雇入たる本業ニ妨
ケある時ハ年限中といへとも
賍を受ハたる事当然なり 但
是とも其瑕瑾を證し得る
ニあらされハ之論ニ及ばざるなり
其余ニ前以約定之書ニ掲置き
なき事ニ是を説を得たる後其誤ニ
つのる事

附添職司或ハ休日之定メ
免許長病ニ而煩ひ候節之事ニ付
方江通し置候事

一 船差出し候ハヽ上ニ而渡方ハ其庭入候ハ
場所（則各居港場ニ有り）ヘ送届ケ候ても宜敷
相心得候上其当人ニ世話致シ候ハヽ
相渡候之旅費其外渡世向以渡し
置候事

一 外國人身分之階級ニより接待
方之事尊卑も一々有之候得共兎
角其支配之者之差図方ニより
折合ふおるしからさる事ニ出来勝
之事ニ付此一ト以て謹之之差図ニ
随ひ一々お勤有之事向求之
被成候事

一 年月ハ相用候日本之暦数を用

由然し彼方ニ而公使之者ニて
皇暦之次ニ西暦を出してより
庶民季月迄も同様なるべし
一 住居之為ニ家作を費候ハ
ともに此交代役ハ差ニ於而後日
暇乞しハ節ニ議論ニ招様無之
変易之の候ハヽ
一 外国人雇ハ九中病死いたし候事ハ

於尚ニ葬礼を営ミの毛も孤独
ニ而外国之者無之前ニ而ハ病気
容體ニより其外ノ送状不為
認置且其后役詞文を初当
人より手持中之品ニ引細之
者ニ而有之一目録いたし其雇
之人ニの掛合且外務省へも於而
其時詞ニより差図之義ニ候事

一民政并拓勵ニ實係之事ハ民
部省へ問合之上其事ニ付可申掛銃
砲操練等軍務ニ實係之事ハ
兵部省へ問合之上其事ニ付可申掛
外国人ハ居留之方ニ而差許相成候共
其事ニ掛り候ハヽ柄ニより其筋ニ差
支有之とも難計候ハヽ無之
其外之儀も同様之事

續歟

一外國人ニ居留地所利用之功
績ニ顕し若ち二ゝ而已細出
記し可届實係之事省へ可
届出事
一居留之外國人へ其居留地ハ何
出候ハヽ容易ニ許更よし其筋
ニ而も止む事也可致執行為
致候支配之地通行之節も

護衛差出其筋へも及掛
合候事
一彼方宗門ニ付獨自拝礼致し
勝手次第たるへし此方之
者一説寺ケ間敷義決而致
間敷尤互ニ宗門之事ニ付決而
論議いたすましき事
右之通相心得其余も類を

推して知るへし

明治三年午年二月

也議済
別紙之通リ学校改正規則来
申正月十一日ヨリ開業之筈ニ付施行
い年ニ致度教官命ニ立以此段
伺

辛未
十二月

当面良策と云ふ処ハ先ツ之を行ハしむへし
宣教師ブロンニハ兼而物語無之親ク一應談
判いたし候ハ相呈可申候ハブロン儀モ之
承度不足之者ニ付宗旨徒ニ候ハヽ其旨モ無
之筈ニ而其御説得之及ひ候上ハ其
通りて御随意ニ心得未々合点ニ不申候ハ
謹而
今般ニ付之議論を乞ふ而已
奥村権典

一 應ブロンニ相談ニ而ハ方ニ而尚儀後若し
実存有之候ハヽ此法ヲ以論し付候ハ当
務之權アルヘし

学校

生徒ニ教料及ヒ諸費ヲ
私建之算

一 金八両　月納
一 金三両　入儀
一 金壱両　寄宿料　但入塾之初度而已

内外生徒五十名ト積リ其月納
八百両ト見込ミ以教料塾監給

教職各一名及ひ諸費ニ充ル則
左之通り

己部　綴字書　第一課程書之訳　金三両　之持教授料毎月
戊部　第二課程書　金五両
丁部　文典　地理書　金七両
丙部　パルリー氏歴史　金拾両
乙部　苦氏理学書　英仏史　金拾八両
甲部　英小史大成　ウエーランド経済書　英政如何　金弐拾五両

塾監教職試各一名ト云教官ト相当合金七両
学子丁一名　月給金三両
毎月之諸費及ひ小破営繕とも
金拾五両ト見込メ金百両也
生徒五十名ト積りなれとも右之
通ニ而ハ若生徒之員数是ニ不
相増ハ時ハ比例を以教官熟
監之月給ヲ相増ハ若亦此外

施設之事件有之生徒ゟ
申立候ハヽ不及其筋ニ市
中積立歩合金ゟ依助力可下
金ニ及下候此段願候以上
右之振合を以来正月十一日発令分
相始メ申し度候以上

辛未十二月

星亨 印

寄留総計書式

某県府第何区寄留総計

何郡 何村何町 何村何町 合何ヶ村町

戸数 何軒

人員 何人

内 男何人 女何人

官員 男何人 女何人 同家族 男何人 女何人

神官 男何人 女何人 同家族 男何人 女何人

華族	何人	同家族	男何人 女何人
士族	何人	同家族	男何人 女何人
卒	何人	同家族	男何人 女何人
兵隊	何人		
僧	何人	同家族 男何人 女何人	同弟子 何人
道者	男何人 女何人	同家族	男何人 女何人
皇学	男何人 女何人	同家族	男何人 女何人
支那学	男何人 女何人	同家族	男何人 女何人
英学	男何人 女何人	同家族	男何人 女何人
佛学	男何人 女何人	同家族	男何人 女何人
兵学	男何人 女何人	同家族	男何人 女何人
医術	男何人 女何人	同家族	男何人 女何人
武術	男何人 女何人	同家族	男何人 女何人
算術	男何人 女何人	同家族	男何人 女何人
筆学	男何人 女何人	同家族	男何人 女何人
尼	何人	同弟子	何人

農　男何人女何人
工
高
雑業
雇人　男何人女何人
脩行人　男何人女何人
囚獄　男何人女何人
徒刑　男何人女何人

日家族　男何人女何人
日家族　男何人女何人
日家族　男何人女何人
日家族　男何人女何人
日家族　男何人女何人
出生　男何人女何人
流刑　男何人女何人

死亡　○　男何人女何人

右之通相違無之候也

年号干支月　日副

氏名㊞

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39
ガラス使用

壬申冐旬

港内町地坪負數調

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

一 壱百九拾九坪弐合　本町七丁目

一 九百九拾九坪八合　同 六

南仲通

一 千五百四拾六坪四合五夕五才　五丁目

一 千五百四拾四坪四合　同 四

一 千五百四拾弐坪　同 三

一 千五百九拾九坪七合　同 二

一 千四百三拾弐坪三合　同 一

弁天通

一 三百三坪三合五夕　五丁目

一 四百四拾坪三合　同 四

一 五百三拾四坪六合　同 三

一 壱百三拾坪五合五夕五才三毛　同 二

一 八百四拾坪　同 一

一 五百三拾八坪　同 六

古田所

一 千二百八表採七斗六升三合　三千貫

一 千二百卅八表採十三斗六升五合　同小

一 千三百五表採十斗五升五合　同三

一 千五百表十採四斗九升　同尺

一 九百三十二表採四斗三升七合　同文

一 二百十二表採八斗二升五合　同云

一 七百六十九表三採十三斗十三升五合七夕

相士所

一 百八表十採三斗十三升　三千貫

一 千五百十三表九採六斗十三升五合　同小

一 九百四十五表五採二斗四升十三合　同三

一 十二百八表三採十六斗五升七合　同尺

一 九百四表八採五斗三升五合　同文

一 千三百四表六採五斗三合　同云

一 六百四十四表六採十七斗八升七合

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑事』 請求記号 822-39

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

觸書張出之ヶ所

港内

町會所前　壱ヶ所

仮會所前　同

同出張所前　同

本町四丁目　同

尾張町三丁目　同

相生町弐丁目

神奈川縣

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

此節七条ニ於テ及しいも雑居為
米佛兼ニ使令同居為致候ニ付
右ハ条約之趣旨ニ出申候、一切
相悖り候ニ付當無之候而無解
候ニ付此段御掛合解候處
一應公使同僚打合之上可申告
可有之斗為申出候ニ付後而相
立候得共右何分雑居候に付
到底差置かたき所ニ付外地所
外國人江之手当并ニ儀ニ付而可然
取調申付置候得共猶追而及可及
可致之此段御心得迄ニ申入候也

壬申　五月　　外務省

神奈川縣

鐵道犯罪罰例

国立国会図書館　タイトル『雑事』 請求記号 822-39

ガラス使用

鐵道犯罪罰例

第一條

鐵道掛ノ者總テ鐵道上ニ關カル事務取扱中醉ニ乘シ無狀ヲ現ハスニ於テハ二十五圓以內ノ罰金ニ處ス若シ其職掌怠惰輕忽ニヨリ鐵道旅客ノ危難トモナルヘキ取扱アルトキハ其事情ニ依リ百圓以內ノ罰金又ハ一年半以內ノ懲役或ハ禁錮ニ處ス

第二條
規則第四條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス
第三條
規則第五條ノ禁ヲ犯ス者ハ十圓以内ノ罰金ニ處ス
第四條
規則第六條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ没シ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第五條
規則第七條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ没シ十圓以内ノ罰金ニ處ス
第六條
規則第八條ニ記セル所行ヲ爲ス者ハ拂タル賃金ヲ没シ二十圓以内ノ罰金ニ處ス
第七條
規則第九條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ五十圓以内ノ罰金又ハ百日以内ノ懲役或ハ禁

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39
ガラス使用

鋼ニ處ス

第八條

規則第十條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以內ノ罰金ニ處ス

第九條

規則第十一條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以內ノ罰金ニ處ス

第十條

規則第十五條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以內

ノ罰金ニ處ス

第十一條

規則第十七條ニ記スル所ノ諸荷物品書其外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品物ヲ出ス者ハ其品物一噸千七百斤ヲ云コトニ二十五圓ノ罰金ニ處ス一噸以下ハ十圓以內ノ罰金ニ處ス

第十二條

鐵道附屬品ヲ毀損スル者ハ第七條ニ照シ罰

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

ヲ科スルノ外其毀損物ノ代償ヲ償ハシムルコトアルベシ但シ其償金ノ追徴モ鐵道寮ヨリ法官ヘ乞フ件ハ法官ニ於テ追徴スベシ

壬申五月

太政官

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

第六十一号布告鐵道略則別紙之通改正候条此旨相達候事

但開司日限之儀ハ治定之上追而可相達候事

壬申四月

太政官

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

第一條　賃金之事

何人ニ不限鐵道ノ列車ニテ旅行セント欲スル者ハ先賃金ヲ拂ヒ手形ヲ受取ルヘシ然ラサレハ決テ列車ニ乘ル可ラス

第二條　手形檢査及渡方ノ事

手形檢査ノ節ハ改ヲ受ケ取集ノ節ハ渡スヘシ若シ檢査ノ節手形ヲ出サス或ハ取集ノ節手形渡ヲ拂ハサル者ハ更ニ最初發車ノ「ステーション」ヨリ乘リ下リ荷物ノ積ミ下ロシヲ爲ス所ヲ云ヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ尤途中ヨリ乘來リシ者ニテ其確證判然タル時ハ其乘リタル場所ヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ

第三條　途中「ステーション」ニテ乘組并手形ノ事

途中「ステーション」ニテハ列車中餘地ノ有無ニ應シテ乘リ組ムコトヲ得ヘシ若シ其手形ヲ買取リシ總人數ヲ容ルヘキ餘地ナキ時ハ其

国立国会図書館　タイトル『雑事』 請求記号 822-39
ガラス使用

中ニテ最遠キ地ニ赴ク手形所持ノ人丈ケ先ツ乗込ムコヲ得ヘシ若シ又同里程ノ地ニ赴ク客數人アル時ハ其手形ノ番号ノ順序ヲ以テ乗ルコヲ得ヘシ

第四條　偽欺ノ者扱方ノ事

何人ニ不限賃金ヲ拂ハス列車ニテ旅行センヿ計リ或ハ遂ニ旅行シ又ハ其拂ヒシ賃金高相當ノ車ニ乗ラスシテ更ニ上等ノ車ニ乗リ組又ハ既ニ車ヨリ下ルヘキ場所ヲ過キ増賃

金ヲ拂ハスシテ遠キ場所ニ至リ遂ニ其賃金ヲ免レント計リ又ハ既ニ拂ヒタル賃金ニテ到ルヘキ場所ニ到リナカラ車ヨリ下リ去ルコヲ肯セス其外如何ナル仕方ニテモ賃金拂方ヲ逃ントスル者ハ夫々法ニ随テ罰スヘシ

第五條　列車運轉中出入禁止ノ事

総シテ列車ノ運轉中ニ出入スルコヲ又ハ車内旅客ノ居ルヘキ場所ノ外ニ乗ルコヲ禁ス

第六條　疱瘡等ノ病人ヲ禁止スルコ

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

疱瘡及諸傳染病ヲ煩フ者ハ乗車ヲ禁ス若シ
此等ノ病人車中ニ在ラハ見當リ次第鐵道掛
リノ者ヨリ車外并鐵道構外ヘ退去セシムヘ
シ

第七條　吸煙并婦人部屋男子出入禁止ノ事
何人ニ限ラス「ステーション」構内吸煙ヲ禁セシ
場所并ニ吸煙ヲ禁セシ車内ニテ吸煙スル
ヲ許サス且婦人ノ為ニ設アル車及部屋等ニ
男子妄リニ立入ルヲ許サス若右等ノ禁ヲ犯

シ掛リノ者ノ戒メヲ用ヒサル者ハ車外并鐵
道構外ニ直ニ退去セシムヘシ

第八條　酔人及不行状人扱方ノ事
何人ニ不限総シテ列車乗組中又ハ「ステーション」
ヨシ并鐵道構内ニテ酔ニ乗シ妄状ヲ現ハス
者又ハ不良ノ行状ヲ為ス者ハ鐵道掛ノ者ヨ
リ車外及鐵道構外ヘ直ニ退去セシムヘシ

第九條　鐵道ニ属スル物品ヲ毀損スル時ノ事
何人ニ不限浪リニ「ステーション」其他鐵道構内

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39
ガラス使用

ニ標識掲示セル書附等ヲ剥シ或ハ破リ又ハ
列車ノ番號札ヲ取除キ或ハ車燈ヲ消シ又ハ
各車ノ諸器械倉庫建家牆柵其他鐵道一切ノ附
屬品ヲ毀損スル者ハ都テ法ニ隨テ所置スヘ
シ

第十條　機關車等ヘ乘込ヲ禁スルノ事

機關方並火夫ノ外ハ其筋ノ許シヲ得スシテ
機關車又ハ炭水車ニ乘リ或ハ乘ラントヲ為ス
可ラス且車長及車掛ノ者ノ外其筋ノ許シヲ

得スシテハ荷物車又ハ旅客ノ為ニ設ケル車
ニ乘リ又ハ乘ラントヲ為ス可ラス若此禁ヲ犯
シ鐵道掛リノ者ノ制止ヲ用ヒサル者ハ直チ
ニ其場ヨリ退去セシムヘシ

第十一條　鐵道地所ハ妄リニ立入者取扱方ノ事

何人ニ不限「ステーションニ」又ハ鐵道構内ヘ妄リ
ニ立入者ハ鐵道掛ノ者ヨリ即刻構外ヘ立去
ラシムヘシ

第十二條　旅客ノ荷物紛失毀損取扱方ノ事

旅客手廻リ荷物其外所持ノ品タリ共総テ之
カ為ニ別段ニ賃金ヲ拂ヒ其受取證書ヲ取置
カサレハ若シ紛失毀損等アルトモ政府ニ於
テ關係セサルヘシタトヒ賃金ヲ拂ヒ證書ヲ取
置トモ其毀損紛失等ヲ償フハ只旅客自用衣
服ノミニ止リ且償金モ五十圓ニ過ルヿナシ

第十三條　高金及大切ノ物品紛失毀損ニ關不關
アル事
金銀紙貨幣郵便切手為替會社通用券為替手

形約定證書金銀請拂證書地所建家沽券諸繪
圖書画古器金銀玉石鍍金及諸彫鏤細工物時
計類其餘衣類或ハ玩佩物ノ粧飾ニ混作ノ品
類及硝子器類陶器漆器酒類蠶種繭絹布生熟
糸等ノ品物運送方ニ付テハ其品柄並價高等
ヲ明白ニ其掛ヘ申立テ増賃金ヲ拂ヒ紛失毀
損等請合シ今ノ外ハ総テ政府ニ於テ之ヲ償
ハス

第十四條　牛馬獣類運送ノ事

国立国会図書館　タイトル『雑事』 請求記号 822-39
ガラス使用

牛馬及其他ノ獣類ヲ運送スルニ其持主或ハ送リ人ヨリ其獣類ノ價ヲ運送掛ヘ申出相當ノ増賃金ヲ拂ヒ請合證書ヲ取置クヘシ若シ増賃金ヲ拂ハス請合ヲ為サル分ハ如何程高價ノ獣類紛失損害アルモ牛一疋金二十圓以上馬一疋或ハ乳牛一疋ニ金五十圓以上羊或ハ豚一疋ニ金五圓以上ヲ政府ニ於テ償フコトナシ

第十五條　砲発ヲ禁スル事

何人ニ不限車内ハ勿論鐵道線及其他構内ニテ砲發スルヲ禁ス

第十六條　爆發質アル危害物運輸ヲ禁スル事

鐵道寮ヨリ追テ公告スルマテハ火藥及ヒ「ピトロールリヤム」「ケロシン、ヲイル」「トルペンタイ」等ヲ云石炭油硝性并ニ爆發質燃焼質等ノ物品ハ運輸セサルヘシ

第十七條　荷物目録ヲ渡スヘキ事

運送ノ諸荷物ヲ鐵道掛ノ者ヘ引渡シ又ハ請

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

取ノ度毎ニ八右荷主或ハ宰領人ヨリ其品柄
數量及姓名ヲ記シテ掛リノ者ヘ差出スヘシ

第十八條　物品并畜類損害償方定限ノ事

鐵道ニテ運送スル物品并畜類紛失損害アリ
トモ鐵道掛リノ怠情疎漏ヨリ起リシニ非レ
ハ政府ニ於テ之ヲ償フコトナシ

第十九條　荷物運送賃金ノ事

何人ニ不限荷物運賃ノ催促ヲ受テ尚拂ハサ
ル時ハ其荷物ノ全部又ハ部分ヲ留置キ若又

其荷物既ニ他所ニ運送セシ時ハ其後同人附
屬ノ荷物鐵道掛リヘ送リ来ルアル時ハ之
ヲ留置キ同人ヘ告知ラセタル上ニテ滯金高
程ノ品ヲ入札公賣シ其滯金ト諸入費トヲ引
取殘金殘品ヲ同人ヘ返スヘシ又時宜ニヨリ
右ノ取計ニヲ為サス法官ニ訴ヘテ賃金并入
費等ヲ取立ルコトモアルヘシ

第二十條　規則ニ隨ハサル者ノ事

何人ニ不限諸事前條ノ規則ニ隨ハスンハ衆

国立国会図書館　タイトル『雑事』 請求記号 822-39
ガラス使用

車及ヒ荷物ノ運送ヲ許サヽルヘシ

第二十一條　規則等ノ變革布達ノ事

此規則中變革及加除アルトキハ遍ク告達スヘシ

第二十二條　荷物運送引請方ノ事

諸荷物ノ運送ヲ引請ルコトハ列車中餘地ノ有無ニ應スヘシ

第二十三條

此規則ヲ施行スルカ為メニ夫々法官ニ訴ヘ

犯罪人罰シ方等ノ裁判ヲ乞フ手順ハ鐵道頭或ハ鐵道支配人ノ聞ニテ其取扱アルヘシ

第廿四條

旅客并荷物ノ運賃ハ時宜ニ隨ヒ變革アルヘシ雖モ其變革毎ニハ二週日前ニ告達スヘシ尤鐵道頭鐵道支配方及運輸頭取ノ間ニ於テ前條ノ如キ告達ナク臨時ニ常例ヨリ下等ノ運賃ヲ以テ別ニ列車ヲ仕立ルコトモアルヘシ

第廿五條

国立国会図書館　タイトル『雑事』 請求記号 822-39
ガラス使用

此規則来ル五月七日ヨリ施行スヘシ

右之條々此度確定候事

今般地所永代売買ヒ差許ニ付譲
渡之分地券渡方之規則之確定
従来之持地ニ而も追而地券ヒ相渡候
旨其他之布告有之ニ付田畑
及山林等迄売買並ニ其他
於持主適宜之便ヲ書出候村々
銘々並ニ而書出次第譲渡之分
日相懸候地券相渡候様可仕事

候ハ、
一地所売買ノ差許地券相渡シ候
事ニ相成候ニ付今後ハ従来之
扱ニ貸地ハ地税之方法ヲ廃
相成候儀与奉存候ニ付而ハ豫メ
納方布告ハ申迄ハ無之候得共不都
合ヲ醸シ可申哉ニ付別紙上
来ハ申迄村々地券ヘ相渡候招

伺度奉存候
別紙之通相伺候間至急御下知
有之度候以上
申五月　陸奥神奈川県令宗光
井上大蔵大輔殿

心得書

地所永代賣買被差許ニ付
今後賣買并讓渡之節地券
相渡ニ付左之條々相心得不
都合之儀無之様取計可致事

第一條
地券ヲ質入書入等ニ致シ融通
之為メ金子借受候儀者勿論

有無ニ不拘年貢諸役ハ地主ゟ
可相納事

第二條

地券ヲ質入書入ニ致シ候節
地所ヲ地主ゟ金主方ヘ相渡置候共
地券而已金主方ヘ相渡置候共相
對次第ニ任セ置可申事

第三條

地券ヲ質入書入ニ致シ候節
地所も金主ヘ相渡シ地主小
作致シ候共又ハ金主方ニ而小作
致シ或ハ余人ニ小作為致候
共都而對談次第たるへし
尤右節ハ年貢諸役ハ金主ゟ
可相納事

但金主ゟ年貢諸役相納候ハ

土地ヲ売渡ス証書ニ連署シ又ハ奥印スル事

第四條

地券ヲ紛失シ又ハ汚損シタル者ハ其所轄ノ官庁ニ届出テ再ビ地券ヲ受ケ取ル可キ事

第五條

地券ヲ華士族平民ニ拘ハラス売買譲与質入ヲ為ス者ハ其所轄ノ官庁ニ届出テ地券ニ其事ヲ記載ス可キ事

第六條

地券ヲ紛失シ又ハ毀損シタル者ハ其所轄ノ官庁ニ届出テ再ビ地券ヲ受ケ取ル可キ事

第七條

地券ヲ売買譲与質入ヲ為ス者ハ其所轄ノ官庁ニ届出テ地券ニ其事ヲ記載ス可キ事

第八條

地券ヲ売買譲与質入ヲ為ス者ハ其所轄ノ官庁ニ届出テ地券ニ其事ヲ記載ス可キ事

第九條

地券ヲ売買譲与質入ヲ為ス者ハ其所轄ノ官庁ニ届出テ地券ニ其事ヲ記載ス可キ事

第十條

地券ヲ売買譲与質入ヲ為ス者ハ其所轄ノ官庁ニ届出テ地券ニ其事ヲ記載ス可キ事

第十一條

地券ヲ売買譲与質入ヲ為ス者ハ其所轄ノ官庁ニ届出テ地券ニ其事ヲ記載ス可キ事

第十二條

地券ヲ売買譲与質入ヲ為ス者ハ其所轄ノ官庁ニ届出テ地券ニ其事ヲ記載ス可キ事

第十三條

地券ヲ売買譲与質入ヲ為ス者ハ其所轄ノ官庁ニ届出テ地券ニ其事ヲ記載ス可キ事

第十四條

地券ヲ売買譲与質入ヲ為ス者ハ其所轄ノ官庁ニ届出テ地券ニ其事ヲ記載ス可キ事

第十五條

地券ヲ売買譲与質入ヲ為ス者ハ其所轄ノ官庁ニ届出テ地券ニ其事ヲ記載ス可キ事

第十六條

地券ヲ売買譲与質入ヲ為ス者ハ其所轄ノ官庁ニ届出テ地券ニ其事ヲ記載ス可キ事

第十七條

地券ヲ売買譲与質入ヲ為ス者ハ其所轄ノ官庁ニ届出テ地券ニ其事ヲ記載ス可キ事

第十八條

地券ヲ売買譲与質入ヲ為ス者ハ其所轄ノ官庁ニ届出テ地券ニ其事ヲ記載ス可キ事

第十九條

地券ヲ売買譲与質入ヲ為ス者ハ其所轄ノ官庁ニ届出テ地券ニ其事ヲ記載ス可キ事

第二十條

地券ヲ売買譲与質入ヲ為ス者ハ其所轄ノ官庁ニ届出テ地券ニ其事ヲ記載ス可キ事

国立国会図書館　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用

地券ヲ質入書入等いたし候節
證文面ヘ戸長副戸長ノ
奥加印不加印無之者不埒之
取計ニ付質入書入等不相
立候事

第八條

従前之仕来ヲ以当テ質地書
入等いたし年季中之分ハ
双方遂示談売買いたし候儀ハ
勿論ニ付キ條々ニ倣ひ約定ヲ仕換
候儀も不苦候事

第九條

地券地所ニ候とも質入書入等いたし候
地主おいて小作致し候節作徳ヲ
金主方ヘ相渡候とも又ハ作徳を
所務いたし候事更ニ利足ヲ定相

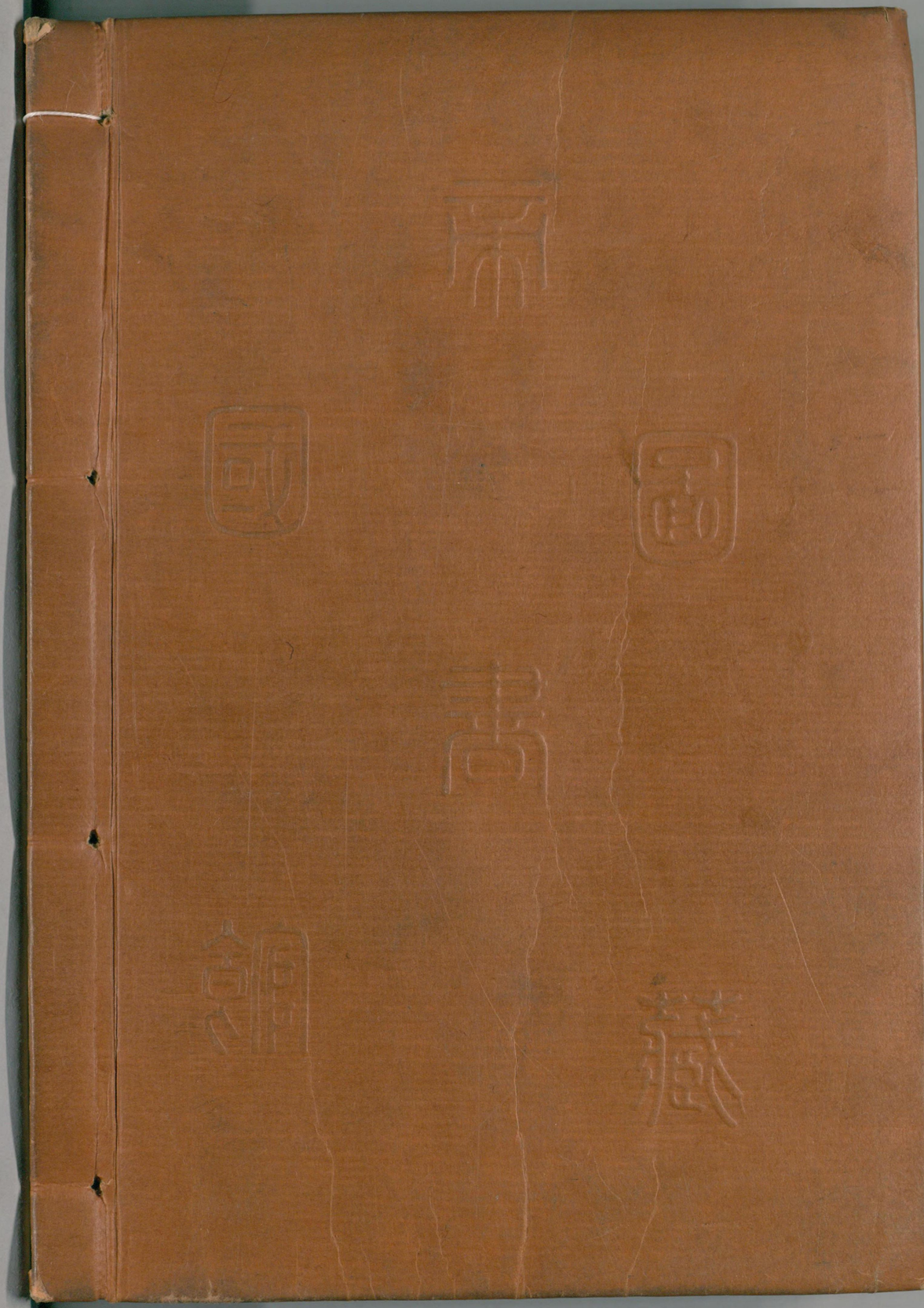
国立国会図書館　タイトル『雑事』 請求記号 822-39

ガラス使用

822
39

国立国会図書館　　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『雑事』　請求記号 822-39

ガラス使用